

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4150280024		
法人名	特定医療法人 芳香会		
事業所名	グループホーム 西唐津駅前		
所在地	唐津市西唐津1丁目6167番地 (電話)090-4485-2644		
評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝1丁目1224番2		
訪問調査日	平成 20年3月11日	評価確定日	平成 20年4月12日

## 【情報提供票より】(平成20年2月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7人	常勤	7人, 非常勤 人, 常勤換算 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3 階建ての		2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000円

### (4) 利用者の概要(2月20日現在)

利用者人数	9名	男性	5名	女性	4名	
要介護1	2名	要介護2	4名			
要介護3	3名	要介護4	名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	83歳	最低	74歳	最高	94歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	唐津第一病院(内科・歯科)
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鉄筋3階建ての2階部分を改築し利用されている。中は穏やかな時間の流れと、あたたかな雰囲気のあるホームである。各居室スペースはゆったりとしていて、安心して行動できる環境である。また、個人の物が持ち込まれ、それぞれに家庭的な雰囲気が出ている。職員の方々の対応も穏やかで、入居者が毎日を安心して過ごしていただけるよう、さりげないサポートを重視されていた。良いと思われることは積極的に取り入れ、入居者の健康状態など、できるだけ維持・向上できるような生活支援がなされている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で、特に改善課題はなかったが、評価項目、結果をいつでも確認できるようにファイルし、職員全員の共通理解に努められていた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で自己評価の記入に取り組まれている。また、評価項目やその結果を、質の向上へ反映できる様、評価結果をファイルし、常に事務所の目につく所へ置かれている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。参加される方々に毎月のサービスの内容を報告し、そこで得られた意見や情報などを参考にし、サービスの質の向上に努められている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会などで来られた際に意見や希望の確認をされたり、必要に応じて自宅を訪問するなどして家族の意見などを把握できるように努められている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	西唐津校区の文化祭への参加や、「ふくしまつり」といった行事への積極的な参加、近隣の保育園との交流など、地元の人々との交流に努められている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「高齢者の方を尊敬し、思いやりを持ち、安らぎのあるグループホームを目指します」の理念のもと、さらに実践にそった6つの小さな理念と1年の目標(毎年見直し)も掲げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事務所などに掲げ、共有化されている。また、それぞれの職員が、日々の中で、理念を具体化できるよう意識を持ち、サービスの提供に取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	西唐津校区の文化祭への参加や、「ふくしまつり」といった行事への積極的な参加、近隣の保育園との交流など、地元の人々との交流に努められている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価に取り組まれている。また、評価項目やその結果を、サービスの質の向上へ反映できる様、評価結果をファイルし、常に事務所の目につく所へ置かれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催されている。参加される方々に毎月のサービスの内容を報告し、そこで得られた意見や情報などを参考にし、サービスの質の向上に努められている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	諸手続き等で市役所を訪問される際にも、情報の収集や、わからないことの確認などをし、連携してサービスの質の向上へ繋げるよう取り組まれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、写真入りの「おたっしや通信」を発行し、各家族に送付されている。また、電話をかけた後、訪問をされるなどして、状況の報告をされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会などで来られた際に意見や希望の確認をされたり、必要に応じて自宅を訪問するなどして把握し、出来る限り反映できるように努められている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	日頃から同法人内の施設間での交流は頻繁に行われており、異動があった際でも、動揺を感じられることは少ない。また、やむを得ず職員が代わる際は、引き継ぎなどに配慮し、スムーズに移行できるよう努められている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で月2回の勉強会が開催され、管理者と1名の職員が必ず参加されている。また、社会福祉協議会などで開催される研修に多くの職員が参加できるよう情報提供が行われている。受講された研修内容については、必ず全職員が閲覧できるような仕組み作りがなされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、同業者との情報交換に努め、サービスの質の向上に努められている。また、同法人内での交流も活発である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居される前にお茶や食事の時間を一緒に過ごしていただくなど、ホームの雰囲気徐々に馴染まれるような工夫がなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の自立支援を念頭に利用者が出来ることはしてもらおうことを基本にしている。日々の暮らしの中で役割分担をしたり、「ふくしまつり」などへ出品する作品も利用者が中心に作成され、職員が教わり手伝うなど、お互いに支えあう関係が築かれている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、本人の希望や意向の把握に努められている。また、七夕の際に短冊に記入された希望のように、普段確認できなかった本人の希望なども、きちんと把握し対応できるよう取り組まれている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員がそれぞれ気づきがあるたびにファイルに記入し、毎月話し合い、介護計画の反映に活かされている。また、本人やご家族にも意見を聞くなどし、本人がよりよく暮らされるよう取り組まれている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、介護計画の遂行状況や効果などを評価し、基本的には3カ月ごとに、利用者の状態の変化や状況に応じて、本人、ご家族の要望を取り入れつつ見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、通院や送迎、医療費助成の申請等の必要な支援は、柔軟に対応されている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に応じて、それぞれのかかりつけ医へ通院支援を行うなど、適切な医療が受けられるような支援がなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の在り方については、本人・ご家族の同意のもと、医療が必要な場合は医療機関へ紹介するなど、緊急時のマニュアルにそって行うことの確認が職員とともにできている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員全員が個人情報については取り扱いについて注意をされている。また、利用者に敬意を持って接するなど、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないような対応がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、利用者一人ひとりの体調に配慮しながら、できるだけ利用者のペースにそって、見守りながら生活を支援されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりのできることを活かし、職員と利用者が一緒に買い物へ出かけたり、調理、盛り付け、後片付け等が行われている。また、旬な食材を取り入れたり、利用者の好みや希望を把握しメニューを工夫するなど、食事を楽しめるような支援がなされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日は決められてはいるが、状況や希望に応じていつでも入浴できるようにされている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かせるよう、カレンダーめぐりや居室のモップがけ、洗濯物たたみなど役割作りや、特技を活かした楽しみごとの支援がなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日頃から同法人内の他の施設との交流で出かけるようにされている。また、買い物や花見など希望にそって外出する機会を作るなど、外出支援が行われている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外にでられるようなことがあれば、散歩をするなどし、日中は鍵をかけずに、自由な暮らしを支援されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月1回利用者とともに避難訓練を行い、年2回は消防署の協力を経て、指導を受けながら行われている。地域の協力についても、運営推進会議などで協力をいただけるような話し合いを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェックし、一人ひとりの状態や習慣に応じた支援がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節感を感じるような作品を掲示したり、生活感を感じるような、家具などを配置されている。また、食事のできる匂いや、こちよい音楽を感じられるような空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはそれぞれの使い慣れた家具などを持参され、利用者の好みの物や、家族の写真などが飾られるなど、本人が居心地よく過ごせるように工夫されている。		